

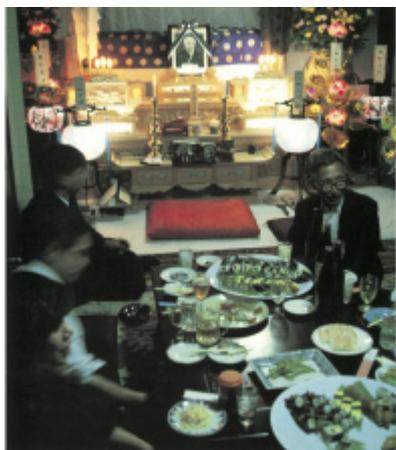
写真で見る 日本人の生活

「このたびは…」…なくなる

このコーナーでは、日本語教育用「写真パネルバンク」（国際交流基金日本語国際センター発行）を使って、初中等教育機関で日本語を教える先生方が、どのように日本人の生活を紹介できるかを提案してきました。初級の学習者でも読めるよう、文型、単語、漢字なども、やさしいものを使っていますので、昨年実施した読者アンケートでも、「必ず読む」と答えた読者の数がとても多い連載の一つでした。しかしながら、「写真パネルバンク」そのものが、当基金が運営するウェブサイト「みんなの教材サイト」に掲載され、同パネルを利用した授業案もそのサイトに掲載されるようになりましたので、このコーナーも今号で終了することにしました。

ものごとには始まりがあると同時に終わりがあります。私たち人間も同じです。いつかは死にます。最終号では、人がなくなったときに行われる儀式…「お葬式」を中心にとり上げます（ここにあげるのは、仏教式のお葬式の例です）。

※写真下の（ ）内の数字は写真パネルバンクの中での、この写真の番号です。



①

(4-121)

お通夜

お葬式には「お通夜」と「告別式」という二つの大きな儀式があります。写真は「お通夜」の一場面です。親しかった人や親せきなどが集まり、なくなった人について語りあいながら、一晩中遺体のそばで過ごします。

なくなった人の家族（遺族）へのあいさつは「このたびはご愁傷さまでした」です。

お焼香

お葬式に来た人は順番に祭壇の前に出て、三本の指でお香を自分の目の高さまで持ってきてます。その後、お香を目の前にある香炉に静かに落としてから両手を合わせお祈りします。これを「お焼香」と言います。なくなった人を悼む気持ちを表します。



②

(5-122)



③

(4-123)

告別式

こく べつ しき

「告別式」とはなくなった人と最後のお別れをする儀式のことを言います。来た人は、お通夜の時と同じように、お焼香をあげます。告別式の最後には、遺族の代表が、お別れに来た人々に感謝の気持ちを表すあいさつをします。

出 棺

しゅつ かん

告別式が終わると、なくなった人が入っているお棺は「霊柩車」という特別の車に乗せて火葬場に向かいます。これを「出棺」といいます。



④

(4-124)

お 盆

ほん

夏になると、なくなった人の霊が家に帰るのを迎える「お盆」という行事があります。家族や親せきが集まって、飾りや食べ物を供えます。



⑤

(4-061)

資

料

東京都生活文化局「葬儀にかかわる費用等調査報告書」(2002年3月) <http://www.saveinfo.or.jp/kinyu/stat/data2003/data2003-060.pdf>によると、2001年の葬儀費用の平均は3,458,600円で、そのうち、お坊さんに渡したのは平均642,700円だそうです。